「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト
「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業
第3回　教材研究会

［発行］
令和元年９月
高知市教育委員会
学校教育課
学力向上推進室

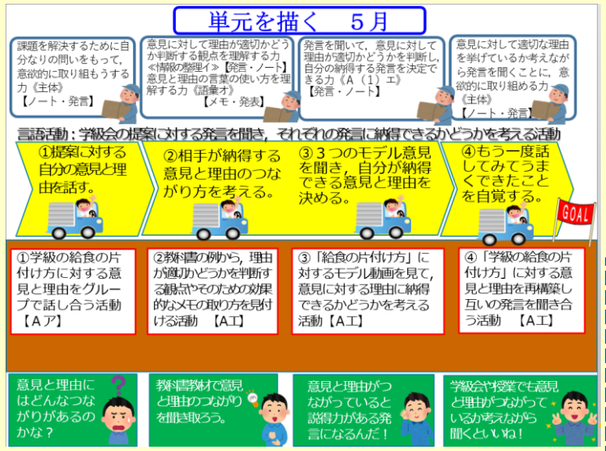
学びに熱中する子供の姿がここにある！
「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業では，教材分析力・授業分析力の向上を目指し，潮江東小学校（指定校）を会場に教材研究会・授業研究会を実施しています。今回は，第３回【教材研究会】（８月 30 日実施）での学びの様子と単元構成の様子を紹介します。

チェック
今後の予定と申込みについて
今後の日程及び申込みについては，HP をご参照ください。
他のレポートも多数掲載！

提案の主旨

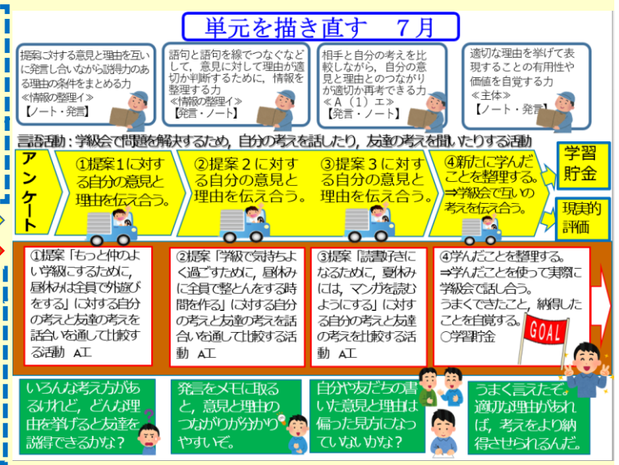
「見方・考え方」を働かせて学びを深める国語科単元づくり（授業づくり）のあり方
【本単元で付けたい力】意見と理由とのつながりを考えて聞く力
【設定した言語活動】学級の改善点の発言を聞き，それぞれの発言に納得できるかどうかを考える活動

第６学年　単元名「つながりを考えて読もう」　《話すこと・聞くこと》
教材名「意見と理由とのつながりを聞き取ろう」（東京書籍６年）
授業者　小松　康文　教諭（高知市立潮江東小学校）

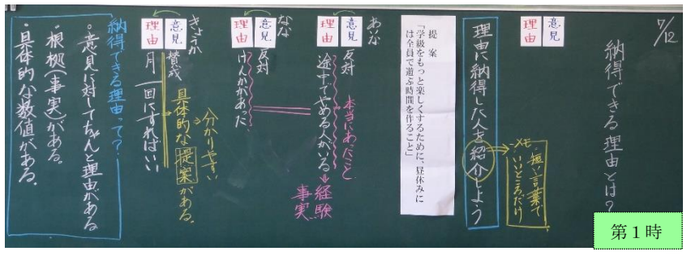


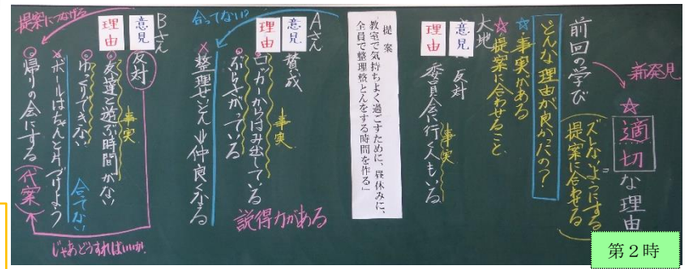
子供自身が提案に対して自分の考えを話す活動がなかった
言語活動を通して資質・能力の育成を目指す単元づくりになっていなかったのではないか。

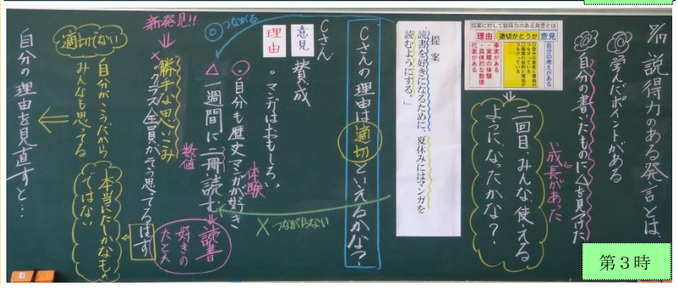
子供同士が考えを聞き合い，適切な理由かどうかを考える場がなかった
既習の知識と新たに学んだ知識が関連しづらい構成になっていたのではないか。



七月実践の最終板書







全体協議

○毎時間「提案に対して自分の考えを話す活動」と「考えを聞き合い適切な理由かどうかを考える活動」を設定することで学びが自分事になり，代案も考えられていてよかった。代案を考えることは，社会に出ても活かせる力だ。
○提案に対する自分の意見・理由を書いておくことで，表現することが可能になっていた。
●授業のビデオを見ると，話し手の子供は記入していた紙を見ながら話して，聞き手はメモを一生懸命取っていた。聞き手を見て話すことを目指したい。
●話す・聞くときには，自分の言葉で表現する中で状況に合わせて内容を削ったり増やしたりしながら話すことが大事ではないか。

【参会者の感想】
・「単元を描き直す」ということがすごい！と思った。子供が必然と思う課題を設定していること，うまくいかなくてもよいからやってみるということが子供の力を本物にしているのだと思った。小松先生の改訂版の単元構成で授業に取り組みたいと思う。
・５月の授業と比べて７月は学習単元を工夫し，言語活動をどの時間も充実できるようにしたことがよかったと思う。既習の内容と新たに学んだ知識を明示して，関連付けていくことが参考になった。単元のまとまりを文脈でイメージするという齊藤先生のお話と潮江東小の研究の話が参考になり，よりイメージしやすい内容となった。
・ゴールを明確にして，子供に目的意識をもたせることや子供にとって真正な課題を設定し，子供が主体的に学ぶことができるようにしていきたいと思った。単元構想を可視化すると，付けたい力やそのための活動，働かせる見方・考え方が分かりやすかった。子供たちが，付けた力を活用しながら新たな力を習得していけるような単元づくりをしていきたい。

講師による全体指導

単元づくりの基本　　構造の可視化

講師　高知県教育委員会事務局学力向上総括専門官
島根県立大学教授　　齊藤　一弥　先生

1 単元構想を可視化
資質・能力を育成していくためには，言語活動がしっかり位置付いていることが大事。このとき，単元レベルでの文脈を描くこと（教師側：ゴールが明確になっている　子供側：目的的活動）を考える。
言語活動を支えるものが学習活動。学習活動では授業レベルでの文脈を描くことを考える。
学習活動を推進する原動力が見方・考え方である。これがないと学習活動は回らない。言語活動を子供が回していくためには，子供にとって真正な課題でなければ推進できない。
見方・考え方に支えられた学習活動の日々の繰り返しによって最終的に単元ができ上がる。この一連の流れを単元の構想として可視化して取り組むことが大事。

2 二つの単元のつくり方をうまく活かす
教材単元：教材配列が優先←学問体系
経験単元：教材構成が優先←子供の経験
二つの考え方を互いに補完しながら単元をつくる。そのために見方・考え方をクローズアップさせた。見方・考え方を働かせることで，二つの単元のつくり方を互恵的に活かすことができる。